

令和5年度 「おおいた地域連携プラットフォーム」 単位互換科目一覧 【後学期】

大学名	科目名	開講曜限		担当教員	単位数	他大学 受講者総数	対象学年	授業 回数	実施方法			到達目標	備考	大分を創る人材 を育成する力		
		曜日	時限						対面授業	同時双 方向型 オンラ イン	オンデ マンド			企業 力	地域 力	汎用 力
大分大学	カラダの見方・考え方	火	1	牧野 治敏	2	10名程度	1～4	15回	●			1.人体描写をひとつ取り上げ、それに対する自分の捉え方を分かりやすい言葉で説明できる。 2.唯物論的自然観に基づいてヒトの生物学的な位置づけを説明できる。 3.西洋科学が日本の文化に影響を及ぼした事例を、一つ以上紹介できる。				
	情報科学の世界	水	1	理工学部 教員	2	10名程度	1～4	15回	●			1.情報科学における考え方には多くの視点があることに関心をもち、それらを説明できる。 2.世の中にあふれる情報を収集・活用する適切な手段を選択できる。 3.情報科学に関連した技術について興味を持ち、基本的な課題や原理を説明できる。 4.現代社会における情報科学・情報技術の様々な応用場面を把握し、説明できる。				●
	学習意欲の心理学	水	1	鈴木 雄清	2	10名程度	1～4	15回			●	1.学習意欲に係わる心理学の理論を説明できる。 2.学習意欲の問題に対して、解決案を示すことができる。 3.学習者として、意欲を高めるための方策を選択し、活用できる。	すべての回をオンデマンド型の遠隔授業として実施します。			●
	電気の世界Ⅱ	水	1	戸高 孝	2	10名程度	1～4	15回	●			1.電気に関する基本的な用語を理解し、説明できるようになる。 2.電気に関連した現象とそれを支配する法則を説明できる。 3.基礎的な電気回路の計算ができる。 4.電気磁気現象を応用した工学技術を説明できる。				
	くらしの化学	水	2	氏家 誠司 衣本 太郎	2	10名程度	1～4	15回	●			1.身近な化学材料や化学製品を説明できる。 2.身近な化学材料や化学製品の特長、役割および問題点を理解できる。 3.身近な化学材料や化学製品の未来について考え、議論できる。 4.日常生活環境に潜在する様々な放射性物質由来の「放射線」について理解できる。				●
	インストラクショナルデザイン入門	水	2	鈴木 雄清	2	10名程度	1～4	15回	●			1.明確な目標の設定やテストの作成、教授方略を用いた教材の設計ができる。 2.インストラクショナルデザインの基礎に従って、独学を支援するための教材を作成できる。 3.形成的評価を実施し、よりよい教材にするために改善策を提案できる。			●	
	日本のマネジメント	水	2	加納 拓和	2	10名程度	1～4	15回			●	1.日本の企業システムの特徴を理解し、説明できるようになること。 2.日本企業が現在直面する課題とそれらに対する取組みを理論的に分析できるようになること。			●	
	ここと一くでキャリアを拓く	金	2	宮町 良広	2	10名程度	1～4	15回	●			1.自らの高校時代の体験を振り返り、それを高校生との対話に活かすコミュニケーションができる。 2.ここと一くのスタッフと協力して、高校訪問の企画・準備・運営やプレゼンテーションができる。 3.自分の進路体験を内省し、将来のキャリアを主体的に開拓できる基礎力を身につけている。				●
日本文理大学	大分の地域ブランド創造体験	集中	-	吉村	2	10	1～4	15回 (4日間)	●			【技能・表現・コミュニケーション】 ①他者と協働して活動を行い、テーマについての対応計画をまとめ、他者にわかりやすく提案することができる。 【思考・判断・創造】 ②地域での活動を体験して情報収集・分析し、テーマに関する地域社会が直面する課題を明らかにすることができる。 ③地域企業が抱える課題を知り、地域資源を活かした商品開発を提案することができる。	春期休業中(2月下旬～3月上旬頃)に実施。低学年優先。コロナの状況によって変更・中止あり。地域で1泊2日の合宿を2回 <協働開発科目>			●
	コミュニケーション演習	火	5	高見・他	2	5	1～4	15回	●			【関心・意欲・態度】幅広く人間関係やコミュニケーションに関心をもち、積極的に行動している。 【知識・理解】コミュニケーションの必要性や適切な人間関係の在り方を理解している。 【技能・表現・コミュニケーション】演習を通してコミュニケーション・スキルを身につけており、表現できる。 【思考・判断・創造】どのような状況で、どのようなコミュニケーションが適切か思考・判断し、創造的に行動できる。				●
	森里海連環学と地球的課題	火	5	池畑・他	2	5	1～4	15回	●			【関心・意欲・態度】自然と人間生活の関わりについて理解するために意欲的に学習に取り組むことができる。その成果として、毎回の講義で出題される課題を提出できる。 【知識・理解】地球の成り立ちと現状、および里海・里山の成り立ちを理解し、自然環境を理解するための基礎的なことを理解している。その成果として、レポートと中間テストで適切な解答ができる。 【技能・表現・コミュニケーション】グローバルとローカルの両面から自然環境の問題を認識できて、それをレポートにおける適切な様式で表現できる。 【思考・判断・創造】自分たちの生活が、自然環境に対してどのようなインパクトを与えているのか判断することができる。その結果をレポートとして中間テストで適切に表現できる。				●

令和5年度 「おおいた地域連携プラットフォーム」 単位互換科目一覧 【後学期】

大学名	科目名	開講曜限		担当教員	単位数	他大学受講者総数	対象学年	授業回数	実施方法			到達目標	備考	大分を創る人材を育成する力		
		曜日	時限						対面授業	同時双方向型オンライン	オンデマンド			企業力	地域力	汎用力
12	起業学	火	3	長崎	2	5	2～4	15回			●	【関心・意欲・態度】 起業への関心を高め、起業についての意欲を持つ。 【知識・理解】 起業の歴史、実際のベンチャー企業への理解を深めるとともに、起業に関する会計などの周辺知識を習得する。 【技能・表現・コミュニケーション】 レポートや試験の記述を通して、論理的な表現能力を高める。		●		
13	日本文理大学 まちづくりマーケティング	水	3	今西	2	5	2～4	15回	●			【関心・意欲・態度】 まちで起きている出来事を理解し、客観的に理解する力を身につけてもらいます。 【知識・理解】 まちの活性化に必要なこと、マーケティングの知識を身につけてもらいます。 【技能・表現・コミュニケーション】 調査を行える技能、レポート、プレゼンテーションの表現力を身につけてもらいます。 【思考・判断・創造】 まちの活性化というプロでも難しい課題を、どのような切り口で考え、まちを経営するという視点からの政策提言などを身につけてもらいます。				●
14	九州学	土	1	上野 淳也 飯沼 賢司	2	10	1～4	15回	●		●	1.九州という場所の魅力を再発見し、九州のすばらしさを認識する。 2.九州の魅力を再認識し、ここで得た知識を伝えることができる。	授業日以外にシンポジウム等の実施を計画しています。 学期末試験実施期間：1月24日～1月30日（ただしレポートによる評価）			●
15	別府大学 温泉学概論	土	2	小野 貴史	2	10	1～4	15回	●		●	1.日本の温泉文化を理解し、それを見直すことができる。 2.温泉の種類、温泉の効用、温泉の地熱利用の知識を取得できる。 3.温泉観光などの知識を取得できる。 4.外国の温泉地の状況を学習できる。	授業日以外に学外実習等の実施を計画しています。 学期末試験実施期間：1月24日～1月30日（ただしレポートによる評価）			●
16	大分短期大学 園芸療法Ⅱ	火	2	小石	2	5名程度	1～4	15回	●			1.授業で取り扱った疾患や障害についての基礎的特徴を理解できる。 2.園芸療法の評価方法の選択ができる。さらにクライアントに対する園芸療法プログラムを作成することができる。				●
17	東九州短期大学 宗教学Ⅱ	未定	未定	緒方 義英	2	5名程度	1～4	15回	●			親鸞聖人の生涯と教えを通して、宗教的な価値観と世俗的な価値観を比較・検討し、人間の本当に拠り所とすべき「真実の教え」とは何かを問いながら、宗教の本質について考察する。 (1) 仏教の本質を理解し、述べる ことができる。 (2) 浄土真宗と他の仏教の違いについて説明 することができる。 (3) 真実の宗教を見極めることができる。				●
18	別府溝部学園 短期大学 温泉コンシェルジュ応用	集中	-	坂田 守史	2	5名程度	1～4	15回	●			1.別府や近隣エリアの地域資源を組み合わせた滞在プログラムの提案ができる。 2.多様な情報を収集し、顧客の滞在価値を高めるツールを作成できる。 3.人的ネットワークを活用し、課題解決力を身につけることができる。 4.顧客や職場等の考えを理解し、課題解決の為の提案を行うことができる。	フィールドワーク有り			●
19	大分学	未定	未定	橋本 讓司 他	2	5名程度	1～4	15回	●			1.大分県内の特色（歴史・人物・文化・産業等）について学ぶ。 2.大分県の魅力を全国に発信することができる。	フィールドワーク有り ※開講曜日・時限は2023年8月初旬確定予定			●
20	大分工業高等専門 学校 社会技術概論	火	2	中山	2	4	3・4	15回	●			1.社会技術に関し、多角的に思考することができる。（試験評価、発表・相互評価） 2.社会技術の要諦を理解することができる。（試験評価、発表・相互評価） 3.具体的事案にそくし、体系的に議論することができる。（試験評価、発表・相互評価） 4.将来起こりうる事態に際し、積極的な解決施策を提案できる。（試験評価、発表・相互評価）				●